

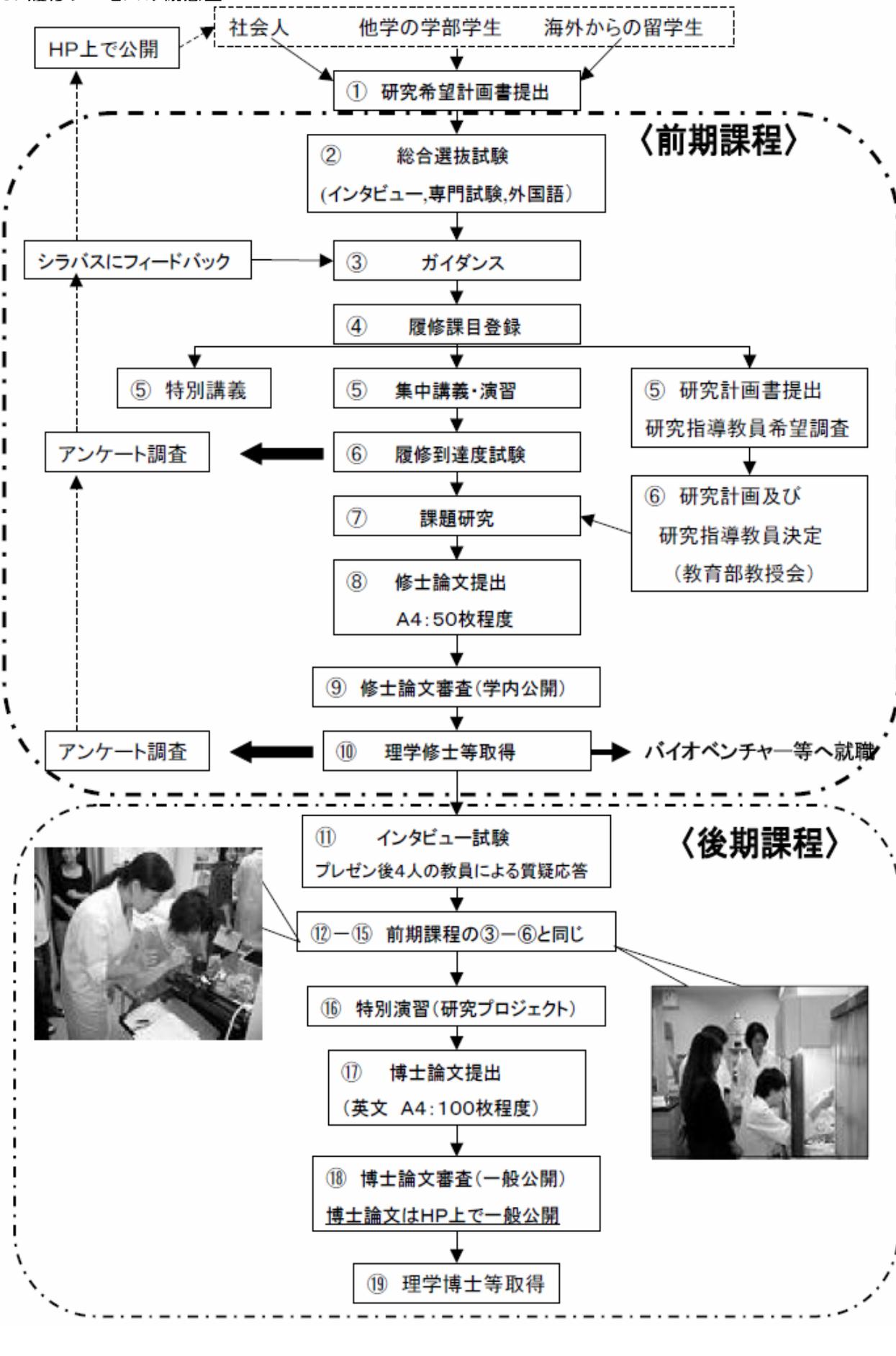
## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

<b>機 関 名</b>	東京医科歯科大学	<b>整理番号</b>	b013
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	生命情報科学国際教育プログラム		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 分子生物学、生体生命情報学、応用ゲノム科学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (転写・再編・制御、バイオインフォマティクス、プロテオーム構造機能解析、高次生命医学、活性発現の分子機構)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 生命情報科学教育部・バイオ情報学専攻(前期課程) 生命情報科学教育部・バイオ情報学専攻(後期課程)	<b>研究科長(取組代表者)の氏名</b> 萩原 正敏	
	(その他関連する研究科・専攻名) 生命情報科学教育部・高次生命科学専攻(前期課程) 生命情報科学教育部・高次生命科学専攻(後期課程)		
<b>5. 本事業の全体像</b>			
<b>5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)</b>			
<p>本学は、平成11年に分化しすぎた医学、歯学の境界領域を統合集約するため、従来の医学研究科と歯学研究科を再編して、世界初の医歯学総合研究科を設置した。平成13年には保健衛生学研究科が発足、平成15年度には疾患生命科学研究所・生命情報科学教育部を設置し、これにより医療生命科学総合大学院大学としての陣容を整えた。夫々の領域の専門性のきわめて明確な医歯学系総合大学院大学として、生命科学のフロンティアに踏み込む独創性を持つ研究者と、患者の痛みを理解できる医療人養成の実現を目標とした研究・教育の体制作りを行っている。現在、本学博士課程の総定員は1000人を突破し、量的、質的に飛躍的に充実しつつある大学院に快適で先端的な研究・教育環境を整備するため、地下3階地上21階の医歯学総合研究棟(I期)を平成16年に竣工させ保健衛生学研究科と医歯学総合研究科認知行動医学系(COE)を研究の機能性を考慮して移転した。さらに医歯学総合研究科の残り10専攻系と疾患生命科学研究所・生命情報科学教育部及び難治疾患研究所を結集する、地下3階地上27階の医歯学総合研究棟(II期)も既に着工し平成19年に竣工させる予定である。こうしたハード面での整備に加えて、21世紀COEプログラムや振興調整費など、さまざまな競争的教育研究経費をベースに、学長裁量による重点的な研究費の投入によって、優れた研究者を養成すべく大学院教育の更なる充実を図っているところである。</p>			

機 関 名	東京医科歯科大学	整理番号	b013
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>生命情報科学教育部／疾患生命科学研究部は、本学の2研究所を母体に平成15年4月に設置された、学部を有しない大学院組織で、1) 徒弟奉公でない組織的かつ実践的大学院教育、2) 教育部と研究部の組織的分離、3) 学際的先端分野の教育・研究推進、4) 社会人を含む多様なバックグラウンドの学生の受け入れ、5) 多様でかつ選択可能なカリキュラムなどを実現した。生命情報科学教育部に入学した学生は、自ら選択した短期集中型の講義・演習を受けた後、疾患生命科学研究部や連携する研究組織の複数の教員と相談のうえ、自らの研究計画を作成し、希望する研究室で研究指導を受けるなど、従来とは全く異なる大学院教育と高度な研究活動を実践している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>生命情報科学教育部と疾患生命科学研究部が個別に教授会を構成しそれぞれに担当部長を配置することにより、1) 教育と研究の責任分担の明確化を実現、2) 柔軟で多様かつ先端的演習・講義を実施、3) 企業等を含む先端的研究機関と連携、5) 社会人入学者に対応した昼夜開講や短期集中講義を実施、6) 組織的研究指導制の確立、7) 教員と学生の双方向教育評価とその公表、など<b>大学院教育の実質化</b>のための先進的な取組を既来实现してきた。本教育プログラムでは、次のステップとして、<b>欧米先進諸国を含む海外から才能ある人材を我が国に吸引できるような大学院教育の実現を目指す</b>。そのためには、日本語を解さない学生に対応するため、科学における国際言語である<b>英語による大学院教育を実施</b>する。具体的には総合選抜入試、講義・演習、論文審査などの英語化を図り、日本語を解さない学生も支障なくトップレベルの大学院教育を受けられる体制を整える。こうしたカリキュラムの実現のため、具体的には以下のような組織的取組を計画している。1) 英語を母国語(あるいは同程度に英語堪能な)とする教員・事務員の採用、2) 講義・演習の補助を行うTA・RAの増員(英語堪能な留学生などを対象)、3) 英語版シラバスの作成、4) 英問英答形式の入試及び論文審査を実施、5) 留学生に対するフェローシップの充実、6) 英語による講義・演習遂行能力向上のためのFD(日本人教員対象)実施。無論、英語化された講義・演習には日本人学生の参加も奨励し、海外からの優れた留学生と活発な論議を行うことによって、国際社会で通用する真の”国際的サイエンティスト“を養成する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	東京医科歯科大学	整理番号	b013
<p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 633 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li>・優秀な留学生の受け入れを視野に入れ、英語による教育を含めた国際化及び欧米型の開かれた大学院教育システムを導入しようとしている点は先導的であり高く評価できる。カリキュラム等も明確であり、優秀な海外スタッフ獲得などの計画が達成できれば、優れた研究スタッフと相まって、その効果は高いと思われる。また、英語による大学院教育を実質化する取組も具体性があり、期待できる。</li> </ul>			